
『ノイズ』

夢涙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『ノイズ』

【Nコード】

N1793Y

【作者名】

夢涙

【あらすじ】

誰だって不思議な体験を一度は、体験するだろう…。

そして、もし自分の存在が否定されて存在していたないものだと誰かが言う

もし、あなたならどうする？

僕なら無視して自分の存在する証拠を証明しない。

なぜなら それは、個人情報の収集している。

謎の政府関係者の戦略なのだから

皆さんも気を付けた方がいい僕みたいにも、デタラメな情報の中で生きてるほうが安全に道を歩けますよ。

人生の道も…

ノイズ

苦しみと悲しみの連鎖は、永遠に続く…。

人は、心の中にある何かに、運命を左右されながら生きていくものだ。

そして、心の中にある感情をコントロールができなくなって罪を冒して誰かの心を傷つけてしまう。

この科学の進歩が進む世界は、未だに解けない謎が多い…。

瞳に映らない何かの存在を…。

ある実験をしている研究所がある。

電磁波を使い未知の者達へのメッセージを送り

その未知の世界の住人と交流をしようとしていたのかもしれない。

皆さんもよく知っているだろうが、アメリカ（NASA）では、未知の生物（宇宙人）との交流をしようと日夜研究を進めている事を…。

あれほどの科学の最先端をいくアメリカの行動に疑問も感じず国民は、避難もせず中傷もなく

その未知との生物との交流を見守っている。

この日本で、そんな研究に、日本政府が億万のお金を使っていたら国民は、間違いなく暴動を起こしているだろう。

この世には、理解できないような出来事がある。

この現代において全ての秘密を知る事ができないものがある。
誰だって、一度は、体験があるだろう

心霊体験…この現象は、今の時代でも理解できない。

脳のメカニズムに結びつけて、もっともらしい理屈と原理と理論を
並べた説明はあるが、どれも不確かな説明なものばかりだ。

精神的異常から起きるものと、誰かが言う
でも、それは、あくまでも仮説の中の理論の答えだろ…。

心霊番組で、よく見かける霊能者や靈感芸能人も精神異常者である
のだろうか？

なんの違和感もなくそんな人達を普通に観ている。

でも、身近に居る人が、幽霊が見えるとか言っていると、なぜか、
あなたは、心の病気だから精神科に行きなさいと言う。

この世は、矛盾した理論と答えばかりなのかもしれない…。

もし、誰かが、この矛盾とした答えを解く事ができたなら…

瞳に映らない者達のノイズ混るメッセージの秘密を知る事ができる
のだろうか…？

真実を…。

形になる空想論…形にならない空想論の思考の中で、人は、様々な
物事を整理して色々な事を判断していく

あくまでも その思考は、物事を決める判断材料であり

あくまでも真実ではなく妄想段階だろう。

人の心の中では、億という思考が溢れ妄想して全てを決めてひとつ
の答えを決めて人は、行動していく

僕は、ぼんやりとした意識の中で、夢の中に漂う小舟を乗りながら様々な空想の世界を見つめている。

きつと、僕は、何かに慣れすぎたのかもしれない。

この奇妙な物語に…。

僕は、多分…何かに触れてしまったのか？

それとも何かを知ってしまったのかもしれない？

僕は、暗闇に染まる道の上を歩き続けていく
不思議な声に導かれるように、まるで、幻聴のような頭の中に響く
声に、洗脳されていく意識の中で、孤独と不安と苦しみと疲れた瞳
で見つめたものは、暗闇ばかりだった。

疲れ果てた心は、もはや痛みも快楽も安らぎも感じないぐらい麻痺
をしていたのかもしれない…。

ただ…考えていた…。

どうして、こんな状況になったのか？

どうして、僕が、この意味の分からぬ物語に巻き込まれた真意を…。

静寂が続く暗闇の部屋の天井を僕は、ただ見つめていた…。

ソファーに、もたれながら深い溜め息をつきながらぼんやりとした
意識の中で、何かを模索している思考回路…。

まるで、答えのない問題を解こうとしているものだろうか？

カオス理論みたいなものだろうか…？

0から始まり0で終わり無限の時間をかけながら0の中にある意味
を探してみたいものだろうか…。

瞑想したままの心は、いつしか疲れ果てて深い眠り落ちていく意識の鼓動が聞こえてくる。

僕は、白い世界で一人で歩き続けていく夢を見ていた。意識は朦朧としたまま歩み続ける僕は僕に問いかけていた。

『ここは、何処で僕は、なぜ歩き続けているのだろうか？』

まるで、僕の身体は、誰かに操られているかのように僕のことを無視するように歩き続けていた。

『いったいなんだろうか？これは、夢なのか？現実なのか？』

どのぐらいの時間が過ぎたのだろうか？僕は、周りを見渡していた。どこまでも広がる白い光に彩られた世界を見つめていた。

『もしかしたら僕は、死んだのかも知れないな…』

不意に暗闇に包まれた部屋のソファーにもられながら眠るように死んでる自分の姿を想像していた。

『かなり酒を飲んだせいだろうか？』

僕は、深いため息をついた。

微かに聞こえてくるノイズのような音：ほんの少し耳鳴りのようなものだったが、だんだんと少女の声になっていく

僕の身体は、崩れ落ちるように倒れた。

まるで、操り人形の糸が切れた人形のように…。

『痛い…痛いと言うことは、夢じゃないなら死んだな俺…。』

鉛のように重い身体を無理に動かして立ち上がり辺りを見渡していた。

『一体此処は、何処なんだ？天国なのか？地獄なのか？』

不意に鳴り響く耳鳴りのようなノイズ思わず頭を抱えながら微かに聞こえてくる少女の声の方を向きながら少女の姿を探した。

『あなたは、誰？』

少女は、僕に問いかけてくるように眩きながら白く輝く世界の大地をゆっくり歩きながら僕を見つめていた。不思議そうな表情の少女の瞳は、好奇心の光で輝く子供のような眼差しだった。

『ねえ？あなたは、誰？』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1793y/>

『ノイズ』

2011年11月29日02時46分発行